

7月15日、「北海道支部との懇話会」を開催

高木理事長、酒匂市場委員長と支部13名が懇談

当組合は、これまで本部と支部の交流・情報交換の場として、①毎年開催される支部総会（東京、東海、大阪、九州）に理事長が出席し、地元の支部組合員と懇談を行い、本支部間の交流を深めるとともに、②毎年1月、新年賀詞交歓会の開催日に合わせて、『全国支部長・委員長会』を開催。理事長、9支部長、3委員長が出席して、報告・連絡案件のほか各種議案に関する検討を行うなど、交流事業を実施してきている。

平成22年度より、上記2事業に加え、新たに4支部以外の支部（北海道、東北、新潟、神姫、中国）の組合員とも交流や情報交換を図るために、『本支部懇話会』を随時実施することとなった。

同懇話会の第1回目として、去る7月15日（木）、北海道支部との会合が札幌市で開催された。

本部からは、高木理事長と、酒匂副理事長・市場委員長が出席、北海道支部からは、阿部仁支部長（阿部鋼材(株)社長）、上遠野久夫・(株)産鋼スチール社長、西村孝治・玉造(株)社長、佐藤隆・(株)マルキンサトー社長ほか13名が出席し意見交換が行われた。

会議は、上遠野社長の司会により開会、議事が進行された。

最初に阿部支部長より歓迎挨拶及び地区の現況について報告が行われた。引続き、高木理事長より、「22年度はまさにシャア業にとって正念場の年だ。高炉メーカーはグローバル化の中で資源高騰に直面しその上昇分をユーザーに転嫁してきているが、特に内需依存型の我々シャア業はこれを吸収できないで苦悩している。今後3カ月毎に母材価格が変わるといった形態に移行しそうであるが、我々はこの高速的な変化に対応していくしかない。当組合としては、メーカーに対し、こうした急激な変化に応じた柔軟な納期対応（短納期化等）の実行をお願いすべく、機会あるごとにモノ申してまいりたい。需要家、特にファブに対しては、キチッとした言い方で説明しながら、双方が立ち行くにはどうすればよいかをテーマに色々活動を展開していきたいと考えている。例えば、品質証明問題ではガイドラインを踏まえ、腰が引けている鉄建協と現在協議中であるが、併せて曖昧になっている契約形態についてもルールの特明化をめざし、地道に検討を重ねていく予定である。今年度は、以上のようなメーカー及び需要家等関係先への意見具申など様々な情報発信のほか、支部との直接対話や人材育成の観点からの若手経営者・幹部間の交流を新基軸に取り組んで参りたい。ご協力のほど宜しくお願いしたい。」との挨拶が行われた。

続いて、酒匂副理事長・市場委員長より、「ここへきて建産機関連需要はピーク比65%程度まで回復してきたが、決して楽観はできない。2～3年先を展望すると、メーカーの生産拠点が大量にアジアへシフトし、国内の空洞化が一気に進む可能性が強い。造船も輸出船の成約が皆無に近い状況が続いており、手持ち工事量が2年程度とあっという間に半減し、一向に歯止めがかからない。切板需要の5割を占める建設分野は更に深刻で、ファブ能力は1200万トン/年と言われているが、足元の需要はその1/3しかなく、能力過剰が顕在化している。一方母材価格も急騰しそれが7月以降入ってくるが、頭の痛い問題ばかりだ。韓国では厚板生産能力が650万トン増加し、需要があるうちはいいが、為替の動向と絡んで下期以降どうなるか、目が離せない状況にある。難題山積で気の休まる暇がない。」との挨拶があった。

北海道支部からは「当地区の建設関連の仕事の大半は、中小手ファブからの注文であり、どのファブも相当疲弊している。大手ファブ（鉄建協）との協議と並行して、中小手クラスファブ業界（全構協）との話し合いも進めてほしい。」との要望があった。

『北海道支部との懇話会』の開催概要は下記の通り。

記

- ・ 日 時 平成22年7月15日（木）14時～16時
- ・ 場 所 札幌全日空ホテル
- ・ 出席者

【本 部】

高木理事長、酒匂副理事長・市場委員長、
柘野（事務局）

【北海道支部】

阿部支部長
阿部専務、高砂常務（阿部鋼材(株)）、
上遠野社長、関部長、鮎沢課長（(株)産鋼スチール）、
西村社長、西村取締役、花田工場長、工藤部長代理（玉造(株)）、
佐藤社長、佐藤取締役、衣笠部長代理（(株)マルキンサトー）

なお、会議に先立ち、当日午前、上遠野社長のご案内により、(株)産鋼スチール銭函工場と、玉造(株)恵庭工場を見学させて頂き、懇切丁寧なご説明を受けた。

以 上